

新たな歴史館の創造をめざして ～長野県立歴史館の使命と目標～

令和4年度(2022年度)目標

【使命】 長野県立歴史館は、長野県に関する歴史遺産の収集・整理・保存・調査研究を通じて、それらを未来に引き継ぐ活動を市町村と連携して行うとともに、県民が歴史をふりかえり、将来を展望する場、楽しみ・憩い・交流する場としての役割を果たします。
また、地域に貢献する県内博物館・文書館の中核、歴史情報の拠点を目指します。

【基本目標1】 長野県民の歴史遺産を未来に継承するための取組を進めます

〔取組1-1〕 考古資料・歴史的価値を有する文書・その他歴史資料等を収集・整理・保存し、調査研究を行います

項	目	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○史資料の収集、整理	長野県の歴史を明らかにするために必要な史資料を収集・整理します。また、当館が公文書館の機能を有し、公文書管理条例が制定されることから、歴史公文書等の収集を適切に行うよう取り組みを強化します。	<ul style="list-style-type: none"> ○文献史料の収集・整理・保存 <ul style="list-style-type: none"> ・特定歴史公文書、県報、行政資料 <ul style="list-style-type: none"> 特定歴史公文書の受け入れ 新規収蔵文書の整理・登録・配架(2000点) 県報、行政資料の公開(年間約300冊) 公開・非公開判定会議の開催、金属除去などの実施 ・現代史料 <ul style="list-style-type: none"> 未整理近現代史料・県報・県史写真版資料等の整理(500点) ・古文書 <ul style="list-style-type: none"> 新規史料の収集 未整理史料の整理を進める。年度内10,000点 ○考古資料の収集・整理・保存 <ul style="list-style-type: none"> ・館蔵考古資料の整理と収納 <ul style="list-style-type: none"> 発掘調査報告書別、寄贈者別に収蔵品(遺物・記録図面・写真所見等)の棚卸しを行い、適切な閲覧(調査研究)ができるよう再整理し、再収納する。年度内1,000箱 ・写真資料等の保存(フィルムのデジタルデータ化) <ul style="list-style-type: none"> 報告書掲載写真フィルムのデジタル化 中判6×7フィルム2,000枚 ○考古資料の保存処理 <ul style="list-style-type: none"> ・収納木製品の保存処理 <ul style="list-style-type: none"> PEG及びトレハロースを使用した保存処理(濃度アップ、樹脂塗布等処理)262点 ・収納金属器、骨角製品等の保存処理 <ul style="list-style-type: none"> 収蔵金属器の劣化状況に応じた処理・再処理を推進 ・収蔵考古資料及び県内文化財の保存処理に係る課題抽出と展望をまとめ、R5以降の保存処理計画の指針作成 ・長野県埋蔵文化財センターの応急的保存処理への協力 ○考古資料の科学分析 <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵資料の蛍光X線分析・X線撮影等非破壊の科学分析を行い、研究成果を蓄積。市町村からの分析依頼に対し、実務調整を行い、可能な範囲で対応
○史資料の保存	収集・整理した史資料に対し、必要に応じて適切な保存処理・修復を行い、適切な環境で保存します。また史資料の滅失、県外への流出・散逸を防ぐため必要な保存措置を講じ、重要な流出資料については購入するなど、特別の配慮を払います。	
○史資料の調査研究	長野県の歴史を明らかにするために、収集・整理した史資料に関する調査研究を行い、史資料を県民のかけがえのない文化財・歴史遺産として位置づけ、その歴史的価値を明らかにします。展示や普及活動を円滑に進めるためにも、館蔵史資料以外の県内外文化財の調査研究を行います。また、後世に伝えるために史資料の情報収集、所在や現状把握に務めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○R5年度企画展の資料調査 <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「古墳展」「近世の焼物展」「和田英展」(仮称)の実施設計の作成 ・上記企画展の資料調査の実施 ○職員の調査研究の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学芸研究会等における調査研究発表の実施 ・研究紀要への研究論文の掲載10論文以上 ・館内における「時代別研究会」の充実 各時代とも年間6回以上の開催

〔取組1-2〕 史資料の保護(保存・活用)に取り組むとともに、保護思想を啓発します

項	目	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○文化財の保護(保存・活用)	市町村、県、国の指定文化財等について、県立の文化財公開機関としての役割を果たします。	<ul style="list-style-type: none"> ○県立の文化財公開機関として、企画展等において指定文化財を展示・公開 <ul style="list-style-type: none"> ・市町村、県、国の指定文化財の展示機会を設ける。 ・当館所蔵文化財借用依頼への対応 ・史資料の保存に関する調査研究を進めその成果を公開
○史資料の保存に関する講習会、研修会の実施	県立博物館・文書館・文化財保存修復機関・研究機関として市町村・県内博物館等への支援、助言を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ○文献史料保存活用講習会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・開催3回 参加者延べ60人 ○考古資料保存技術講習会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・開催2回程度 ○防災・災害の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・事例研究や他県の体制・対応を参考に研究を推進

項 目		令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○埋蔵文化財保護に関する市町村への支援	遺跡・遺構・遺物の保護、発掘調査・研究、研修などに関し支援します。	○資料の保存等に関する市町村への協力・支援 ・依頼事項の 80%以上 ○埋蔵文化財の保護等に関わる市町村への協力・支援 ・遺跡や遺物の保護、発掘調査等を学術面から支援(依頼に応じて対応) ・埋蔵文化財(遺跡・遺物)に関わる研究や研修(講演等含む)に対し協力・支援(依頼に応じて対応)
○公文書等の保存・活用に関する県、市町村等への支援	県、市町村等へ公文書等の保存・活用について支援します。	○県、市町村等へ公文書等の保存・活用についての支援 ・依頼事項の 90%以上

【基本目標2】 未来を映す歴史知識の泉、歴史学習の拠点としての役割を果たします

【取組2-1】 長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します

項 目		令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○常設展示の充実	定期的な展示替えや新展示をするなど展示の改善を図り、総合調査の成果を生かした総合展示を実現します。さらに県民のニーズに沿った全面的なリニューアルを進めます。	○常設展示の工夫 ・満足度 80%以上 ・関係機関との連携 市町村教委、県内外博物館、信州大等 ○展示情報の発信 ・Youtube や SNS を活用し、新展示紹介や展示解説動画などを前年度以上に発信する。 ・撮影・収録の手法・技術や解説内容・話術などのスキルアップを図る。 ○展示リニューアルに向けての検討
○企画展示の充実	県民のニーズに沿った企画展を実施するとともに、企画展示の充実を進めます。また、理想的な環境で文化財を公開できるように環境整備を行い、展示室のリニューアルを実現します。	○企画展示の充実 ・満足度 80%以上 ・所蔵品展「至宝の名品 考古資料編」(3/19～6/12) ・夏季企画展「山伏 佐久の修験 大井法華堂の世界」(7/9～8/21) ・秋季企画展「諏訪と武田氏」(10/8～11/20) ・冬季企画展「高遠藩の遺産 最後の藩主が残したもの」(1/14～2/26) ・所蔵品展「至宝の名品 古文書編」(3/18～6/11) ・Youtube や SNS により、解説動画・情報等を発信する。 ○ミニ展示の開催 ・企画展示室横の小展示室を、各企画展の一部として使用しない際には、館蔵品を使った企画展関連展示や、新収蔵品の紹介展示、パネル展示などで活用する。
○専門分野の協力による総合調査の実施	考古資料、文献史料、総合情報の3部門及び館外研究者等の協力による長野県の歴史に関する総合的研究を行います	○総合研究の成果を企画展時に活かす ・3課の協力による所蔵品展の実施
○県内外の研究団体、研究者等と協力した調査研究の実施	県内外の地方史研究団体、郷土史・地方史研究者、市町村教育委員会、博物館、大学等と協力した調査研究を実施します。	○館設定研究テーマの調査・研究 ・ 高遠藩研究会 高遠等での資料調査時に随時実施 *参加者:伊那市・宮田村の研究者、教育委員会 *内容及び到達目標:R4 冬季展「高遠展」に向けて、資料調査を共有するための意見交換 ・ 長野県行政文書研究会 長野県史に指定されている当館所蔵特定歴史公文書の基礎的研究を行う。 *参加者:大学研究者 *到達目標:年3回以上開催し、情報交換を実施 ・ 長野県青年運動史研究会 当館所蔵「県連合青年団史料」を読解し、戦後の青年団運動等を系統的に研究することで、戦後地域民衆史の構築を図る。 *参加者:信州大学・長野大学等県内大学教員、図書館職員、アーキビスト等 *到達目標:年3回以上開催し、史料調査も当館で実施
○新たな長野県史の編纂に関する史資料の調査・収集	長野県によって推進された戦前までを範囲とする「長野県史」を受け継いで、その後の長野県の歩みを明らかにする「長野県現代史」をはじめとする県史編纂のための史資料収集をします	○近現代資料の調査・収集 ・聞き取り調査の実施(3回)

【取組2-2】 県民の生涯学習を支援します

項 目		令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○展示解説の実施	常設展示、企画展示など、展示を企画した学芸員が、展示のねらいや内容についてわかりやすく解説します。	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示室たより「資料が語る」の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・展示替え、新展示に合わせて、見直し・作成 ○展示解説・ギャラリートークの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・解説希望の学校・団体 100%実施(コロナ対策として密を避けるため解説付きのみ受け入れる。) ・各企画展における展示解説・ギャラリートーク実施
○講演会・講座等の開催	企画展講演会及び講座(古文書講座・考古学講座・信州学講座等)を開催します。	<ul style="list-style-type: none"> ※コロナ対応のため、すべての講座で参加人数制限、事前申込制を継続 ○信州学講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・開催9回 満足度 80%以上 ○考古学講座の開催、探訪会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・講座開催5回 特設講座開催3回 満足度 80%以上 ○古文書講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・開催 25 回 受講者 600 人 満足度 80%以上 ○ティーンズ古文書講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・開催4回 受講者 5 人 満足度 80%以上 ○古文書フォローアップ講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・開催2回 各回 40 名 満足度 80%以上
○各種出版物の発行	ブックレット、研究紀要、史料目録、企画展・常設展図録、館たよりなどを発行します。	<ul style="list-style-type: none"> ○計画に従い各種出版物の発行 <ul style="list-style-type: none"> ・ブックレット:「学芸員が語る 長野県立歴史館所蔵品選」第3巻の発行 <ul style="list-style-type: none"> 館蔵資料の一品を学芸員が選定し執筆する。ジャンル別に4巻構成 年1回発行 ・研究紀要:1 冊発行 ・企画展図録:夏季・秋季・冬季企画展における図録発行 ・館たより、催しもの案内:館たより年4回、催しもの案内年1回発行
○体験学習の実施	各種体験学習を開発し実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ○体験学習の教材開発と実施 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな体験メニューの開発

【取組2-3】 学校教育を支援します

項 目		令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○学校教育への協力・連携	小中高校の総合的学習や社会科授業、大学の教養科目等のの一環として歴史館を積極的に活用してもらえるようにします。さらに博物館実習をはじめとする大学教育との連携を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ○学校見学時の施設案内の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・満足度 80%以上 ○小・中・高・大学等での出前授業 <ul style="list-style-type: none"> ・依頼に応じて対応
○職場体験の受け入れ	中学、高校、大学での職場体験事業(インターンシップ)の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらい、博物館・文書館等への認識を深める機会を設けます。	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館実習の受入 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応のため参加人数上限8名まで受入れ ○職場体験学習の受入 <ul style="list-style-type: none"> ・希望者の 90%の受入れ
○教員研修の実施、協力	県教育委員会等の依頼により、教員対象の研修会を行い、博学連携を深めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○教員研修への協力、実施 <ul style="list-style-type: none"> ・希望者の 90%の受入れ

【取組2-4】 歴史情報を提供します

項 目		令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○館蔵史資料の閲覧	考古資料、文献史料、図書資料等を閲覧できるようにします。	<ul style="list-style-type: none"> ○史資料の閲覧 <ul style="list-style-type: none"> ・整理が終了した古文書等の公開を進め、公開情報をホームページ、ブログ等に掲載、周知 ・整理・収納した考古資料の公開を進める。閲覧依頼については事前調整を行い、閲覧可能資料には 100%対応 ・図書資料については、寄贈、購入等の手続き終了次第閲覧可能となるよう登録を進める。 年度内受入図書資料の 100%登録
○レファレンスへの対応	県民等からの質問に的確に対応し、歴史情報を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> ○レファレンスにに対する的確な対応 <ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス対応 100%実施 ・職員内のレファレンス内容共有

項 目		令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○ホームページの充実	歴史情報提供の有力な手段の一つとして誰もが活用できるように、使いやすさに配慮したホームページを充実させます。	○ホームページによる情報提供 ・アクセス数の増加 前年比 100%以上 ・開・閉館情報や来館者へのお知らせなど、時宜に応じて発信 ・展示解説動画配信やこども向けなど、Web を利用した企画を計画・実施する。
○歴史情報システムの整備	館蔵史資料情報をデータベース化し、ホームページ等を通じて的確に情報提供します。	○歴史情報のデータベース化の推進 ・考古資料 デジタル化した発掘調査記録写真のデータベース化に着手する ・文献史料 古文書等の目録をデータベース化し、歴史情報システムに登録する。翻刻した文書を掲載
○マスコミ等による歴史情報の発信	広く歴史情報を県民に伝えるために、マスコミ等により積極的に情報を発信します。	○マスコミによる歴史館情報の発信 ・信濃毎日新聞「しなの歴史再見」への連載 ・企画展、講座等の情報発信(新聞、情報誌等への掲載) ・ケーブルテレビによる主催講座の発信
○常設展示室での情報機器による提供	メイン展示、周辺展示を補い、必要な歴史情報を提供できるようにします。	○ICT の新たな活用方法の検討 ・現代の情報機器に即した既構築コンテンツの活用方法を検討する。

【基本目標3】楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします

【取組3-1】楽しむことができる場とします

項 目		令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○子どもが楽しみながら歴史を体感できる空間の提供	子どもたちが歴史を楽しみながら体感し、遊びを通して学ぶことのできる空間を提供します。また、親子や家族で語り世代間のコミュニケーションを促進する場や機会を提供します。	○館リニューアル検討と併せ、こども歴史館(仮)の検討 ・展示構想等検討 ○親子映画会の開催 ○体験イベントの開催 ・こどもの日・夏休み・クリスマスリースづくりは継続実施、そのほか企業協賛日等イベント実施

【取組3-2】人が交流でき、憩える場とします

項 目		令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○来館者、ボランティア・館職員などの交流の実現	展示を観覧する、講座を受講するなどの受動的なあり方を転換し、来館者同士、あるいは来館者とボランティア・館職員が気軽に交流する場や機会を提供します。	○来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流の場提供 ・体験イベント等における来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流促進
○憩える場の環境整備	観覧の合間に休息できる空間や施設、そして自然環境を満喫して憩いの空間となる屋外展示を充実します。	○屋外展示の充実 ・通路の整備、清掃 ・各時代別植栽の手入れ、説明看板の整備

【取組3-3】県民が参加した館の運営を進めます

項 目		令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○館の史資料を活用した自主学習会の育成	県民参加の歴史館運営の一環として、館蔵史資料を使った愛好会活動が行える環境を整えます。	○古文書愛好会の育成と活動支援 ・参加者数 延べ 500 人 ・古文書解説文を 1 冊刊行
○ボランティアの育成	展示案内、体験学習、史資料整理・保存などの館活動へ主体的に参加するボランティアを育成し、ともに活動します。	○運営サポートボランティアの育成 ・展示解説・体験・作業ボランティアの募集・養成を行い、館運営への活用を推進
○利用者の意見を反映した館の運営	館の運営に、アンケート等により寄せられた意見を反映させていきます。	○利用者アンケートの活用 ・来館者アンケート意見の反映 ・ホームページ問合せフォームによる意見募集

【基本目標4】 県内全域での活動を推進し、地域に貢献する活動を進めます

【取組4-1】 県内全域の県民の生涯学習、子どもたちの歴史学習を支援します

項 目	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○出前講座等の実施	<p>歴史館から離れた地域の博物館等へ館職員が伺い、館主催の講座を開催します。また、県内全域の博物館等からの依頼に応じ、講演会等を行うために職員を派遣します。</p> <p>○出前講座等の開催 ・「信州学出前講座」として、諏訪市・箕輪町・大桑村と連携し講座を開催 満足度 80%以上 ・上記以外の出前講座 要請の 90%以上実施</p>
○出前授業等の実施	<p>歴史館から離れた地域の学校・公民館と連携し、館職員が貴重な史資料とともに赴いて授業を行います。また、県内全域の学校(小・中・高校や大学等)からの依頼に応じ、授業を行うために職員を派遣します。</p> <p>○お出かけ歴史館事業の実施 ・伊那・木曾地域に加え、諏訪地域も対象に追加 3回開催 ○出前授業の実施 ・学校からの出前授業 要請の 90%以上実施</p>

【取組4-2】 地域活性化につながる情報発信を進めます

項 目	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○地域活性化につながる情報発信	<p>積極的な情報発信による地域の活性化に寄与します。</p> <p>○地域の活性化に寄与する積極的な情報発信 ・県内の地域に特化した企画展の調査・研究 ・常設展・企画展における市町村所蔵資料等の借用・展示</p>

【取組4-3】 地域課題を捉えた調査研究を推進します

項 目	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○地域課題の調査・研究	<p>県の関係部局、県内外の博物館等と連携して、地域課題・地域文化の調査・研究を行います。</p> <p>○歴史的水害を伝える史料の活用研究会への調査協力・連携 ・「歴史的水害を伝える史料の活用研究会」(山浦直人当館名誉学芸員が中心となって立ち上げた河川絵図を調査し活用する研究会)との連携・調査協力 ・当館蔵の長野県測量図等のデジタル撮影、研究会開催</p>

【基本目標5】 県内博物館・文書館の中核、歴史情報の拠点としての役割を充実させます

【取組5-1】 県内外諸機関との連携を進めます

項 目	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○県内外の博物館等との連携	<p>県内博物館・文書館等の中核として県内外の博物館等との連携を進め、史資料の収集・整理・保存及び調査・研究、情報共有等の活動を充実させます。</p> <p>○県内外博物館等との連携 ・R5 開催予定の古墳展に向け、群馬県立歴史博物館・山梨県考古博物館との連携推進 ○長野県博物館協議会、長野県史料保存活用協議会の運営 ・県博協 HP 運用、加盟館のイベントを発信 ・県史料協メールマガジンによる情報発信、県外流出文書の情報共有</p>
○県内外諸機関との連携	<p>県の関係部局はもちろんのこと、県内外の関係諸機関と連携して活動します。</p> <p>○関係機関との連携 ・近世史セミナー(信濃史学会 信州近世史セミナー共催)1回 ・歴史館企業協賛の日 年2回開催</p>
○県内外の歴史情報の収集	<p>歴史情報(県内市町村資料情報、県内外歴史雑誌等情報)を収集し集約します。</p> <p>○歴史情報の積極的な収集、集約 ・資料調査員からの県内市町村資料情報の収集 ・県内外歴史雑誌等の収集及び掲載内容の閲覧システムへの登録</p>

【取組5-2】 県内歴史情報のデータベース化・デジタルアーカイブを推進します

項 目	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
○県内歴史情報のデータベース化	<p>集約した県内の歴史情報をデータベース化し、関係機関と共有します。</p> <p>○集約した県内歴史情報のデータベース化、共有化 ・資料調査員からの市町村資料情報をデータベース化</p>
○県内歴史情報のデジタル・アーカイブの推進	<p>データベース化した県内の歴史情報のデジタル化を進め、デジタル・アーカイブにまとめます。</p> <p>○データベース化した歴史情報のデジタル・アーカイブ作成 ・館内史資料のデジタル化を進め、デジタル・アーカイブとしてまとめる。</p>
○インターネットを活用した情報の提供	<p>データベース化、デジタル化した県内の歴史情報をインターネットを活用して提供します。</p> <p>○ホームページなどによるデータベース・デジタルアーカイブの提供 ・デジタルアーカイブのホームページ新規追加 ・ホームページ内デジタルアーカイブ利用数の増加 前年比 100%以上</p>

【基本目標6】 来館者及び職員の安全・安心を第一とした館運営を行います

項 目	令和4年度 主な事業・取組 / 目標値
来館者及び職員の安全・安心を第一としながら、社会情勢に応じた館運営を行います。	<p>○適切な感染防止策の徹底</p> <ul style="list-style-type: none">・検温、手指消毒、健康状態の把握、マスク着用、入場制限、距離の確保、事前申込、定期的な消毒・換気など <p>○安全管理のためのマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none">・最新の情報収集、状況変化に応じた対応策の検討、事態発生時の対応策など